◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 菊池寛実 智美術館【東京・港】（https://www.musee-tomo.or.jp/exhibition/index.html）

1 月 18 日（土）～5 月 6 日（火）

企画展： 現代工芸のすすめ

陶芸といえば日用陶器や茶陶をはじめとした道具としての器を想像されるかもしれません。しかし、現代の陶芸には器の形態を用途や機能ではなく立体造形としてとらえる視点があり、また、素材や技法、伝統など陶芸にまつわる要素を独自の視点でとらえたオブジェ的な造形作品が存在します。個人作家によって展開される多様な制作、その未知なる思考、美意識に当館設立者の菊池智（1923～2016）は魅了され、20 世紀後半以降の日本の陶芸作品を精力的に蒐集しました。そして、1983 年には自身のコレクションによる展覧会「Japanese Ceramics Today（現代日本陶芸展）」をスミソニアン国立自然史博物館のトーマス・M・エバンスギャラリー（米・ワシントン）で開催します。当時 40 代から 50 代であった作家たちの作品を中心に構成し、日米の貿易摩擦が問題となるさなかに日本の同時代の文化を紹介する展覧会が受け入れられた経験は、菊池がその後、文化事業に注力していく契機ともなりました。本展では、同展出品作をはじめ、1970 年代から 80 年代の作品を中心に日本の現代陶芸の展開をご覧いただきます。

2. サンリツ服部美術館【長野・諏訪】（https://sunritz-hattori-museum.or.jp/pages/265/）

3 月 4 日（火）～5 月 11 日（日）

企画展： 工芸の文様 美をまとう道具

この度は、サンリツ服部美術館の所蔵品のなかから、陶磁器、漆工、染織品といった工芸品に施された文様をご紹介いたします。食器・衣服・装飾品・建物など、私たちの身の回りのものには様々な文様が表されています。文様は古くから人々とともにあり、幾何学文や動物文、植物文、人物文など、多種多様な意匠の文様がつくられてきました。その土地の風土や習慣、時代の流行を反映した個性豊かな文様には、当時の人々の願いや美意識が込められています。良縁を意味する七宝繋文が透かし彫りされた虫籠や、和歌や古典文学に多く登場する武蔵野の風景を象徴するモチーフが描かれた鉢、桃山時代から江戸時代初期に流行した菊桐文様が施された棗などの工芸品を通じて、文様の美や歴史に触れる機会となりましたら幸いです。

3. 国立工芸館【石川・金沢】（https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/r6-03）

3 月 14 日（金）～6 月 22 日（日）

所蔵作品展： 移転開館 5 周年記念 花と暮らす展

日本では春夏秋冬の四季の中で、季節ごとの花や色彩を生活に取り入れ日々の暮らしを楽しんできました。多くの作家が身近な自然にテーマを求め、春の花だけでも椿や桜、牡丹などをさまざまな作品として表現しています。身の回りにある花々だからこそ、それぞれの技法や個性が際立ってきます。さらに工芸作品では、花を生活に取り入れるための花器も数多く制作されてきました。本展は国立工芸館の所蔵品を中心に、春から夏にかけて咲く花などの植物をテーマにした工芸・デザイン作品と花のためのうつわをご紹介する展覧会です。作品に登場する花々は本展の会期中、身の回りで目にすることのできるものを集めてみました。本展を通し身近な自然と工芸・デザインの関係に改めてご注目ください。 ※会期中一部展示替いたします。［前期: 3 月 14 日(金)～5 月 6 日(火)／後期: 5 月 8 日(木)～6 月 22 日(日)］